

## 横川にカンパイ! 街と人をつなぐ『音楽』の架け橋

レポーター ひろ記者 津森正裕

季節ごとのイベントや、アート、サブカルチャー、スポーツ&アクティビティなどで、近隣住民を始め、若者、外国人観光客などで盛り上がりを見せる横川の街。企画運営を主に担っているのが「横川カンパイ王国」。音楽広報大臣を務める宮地弘充さんにここまで至った経緯と今後の展望を聞いた。ちなみに、宮地さんは東京で約6年のバンド経験があり、今も広島でバンド活動を楽しんでいる。「横川カンパイ王国」国歌の作詞、作曲者でもある。



▲音楽広報大臣の宮地弘充さん

### 横川カンパイ王国

地元商店街の活動に、約10年前から、近隣住民、地元企業、学校、市役所職員、外からの希望者等々と参加の輪が広がり「横川は面白いことができるエリア」と認知されるまでになっている。2018年4月に「横川カンパイ王国」として建国宣言し、活動の幅、量ともに拡充を続けている。多くのユニークな活動が生まれているが、音楽分野にも新しい動きが始まっている。



▲王国の「トマン国王」

### 横川スター誕生

2019年に始まった音楽活動。目的はアートと音楽の連携。アートギャラリーのスペースを活用して、誰でも演奏できて、気軽に聴きに行ける音楽イベント。横川から才能あふれるスターが誕生することを目指す。1回目は3月29日(金)、2回目は6月28日(金)に実施し、各回5~6組のアーティストがステージを盛り上げた。ジャンルは自由で、老若男女が

参加しオリティも差があるが、演奏する側も聴く側も楽しい時間を共有した。(演奏参加費1,000円、入場料1ドリンク付き1,000円。19:00開演)

ギャラリー側は音楽イベントの参加者にギャラリーを知ってもらうことも期待している。

### 横川スター誕生 横川駅前広場編

10月11日(金)夕方には、エリアマネジメント協議会とも連携して、出演者のハードルを低くした「ゆるい音楽イベント」を実施。横川駅南口広場に人工芝を敷いたスペースで、出演者と観客がゆるやかな雰囲気の中で一体となって音楽を楽しんだ。(参加費無料)

目指すところは「横川を子、孫が安心、安全に暮らせる街に。加えて楽しい街に…」と宮地さん。広電で、JRで、バスで、自転車で、ローカルな、それでいて何か新しい横川時間を体感しに訪れてみてはいかがでしょうか。

「ひろ記者」とは、市民自らが地域のまちづくり活動やイベントなどを取材し発信していく、広島市の市民レポーターです。

▶ <http://www.city.hiroshima.lg.jp/hirokisha/>



▲アートギャラリーでの「横川スター誕生」



▲横川駅南口広電車のそばで「駅前編」

## らしくコラム

Rashikoku column

### 地域と人をつなぐ音楽

<アートマネジメント>という言葉が、まだ日本の社会に浸透していなかった90年代、アートマネジメントは「アートと社会(人)をつなぐ」こと、と説明されてきました。音楽においては、「音楽と社会(人)をつなぐ」こと。裏返せば、アート=芸術という概念と人々の生活との間に、乖離が存在していた時代であったと言えます。

その後、音楽の持つ様々な力に社会の注目が集まるようになりました。癒し、ストレスの発散といったものから、認知症予防や学力の向上、果ては免疫力の強化(?)まで、音楽の効用について、心理や脳科学の領域から多様な研究が進められています。鑑賞の対象から、ある種のツールとして人々の暮らしの中に取り込まれつつある、と言っても良いかも知れません。一種の先祖返りです。音楽の持つ「人を集める力」を利用した、村おこしやフェスティバルも、地域に経済効果をもたらしています。

この間におきた「音楽すること」、つまり、人々が音楽に主体的に関わっていく流れは、とりわけ、芸術音楽にとって大きな意味がありました。音楽はごく一部の才能に恵まれた芸術家のものにあらず、誰もがあらゆる段階で「音楽する」主役である…この考えは、近代の西洋文化が築いてきた音楽聴取のあり方「弾く人=与える人」と「聴く人=与えられる人」との垣根を取り除くもので、ますます増加する参加型イベントの大きな後押しとなっています。

このような場で見られる協働・共創の体験は、音楽によるコミュニケーションの賜物であり、そしてそこから、街に新しい人々の輪が生まれるわけですが、音楽をすること自体の楽しみは、昔から人々が体的に知っていたことです。その意味では、音楽の原点回帰でもあります。最近の

研究で、音楽活動への参加は自己肯定感と共感感覚を相互に作用しながら高める、という検証がなされています。AIはこの「共感」を苦手とするのだそうです。「共感力」こそ「人間らしさ」であり、未来をつくる創造の源であるならば、音楽活動の意義もさらに大きくなる日がやってくるかも知れません。

さらに最近はまだ一歩進んで、音楽活動は地域の課題解決にも期待されています。(孤立)は現代社会の課題のひとつですが、老若男女を問わず、「誰もが気軽に参加できるコミュニティ」や「生きがいがづくり」は、人の孤立を防ぐ大切な要素です。身近な音楽活動は人々のQOL向上の一助となり、身体的な体験が、電子世界に生きる私たちに、社会の中で自己の存在や役割の道しるべを与えてくれます。

このように考えると、アートマネジメントは「音楽と社会(人)をつなぐ」から「音楽で地域と人をつなぐ」に変わってきたことがわかります。そして、CSV(共有価値の創造)、人々のWell-being(善き生)に向かっています。



### Profile

エリザベト音楽大学 音楽文化学科 学科長 教授  
壬生千恵子

東京藝術大学音楽学部楽理科卒業、東京学芸大学大学院博士課程修了。博士(学術)。90年代より内外のアート・アドミニストレーション業務に携わり、舞台芸術分野の人材の育成事業および教育実践に関わる。(財)日本音楽教育文化振興会事務局長を経て、エラスムス大学、東京大学大学院にて研修。現在、エリザベト音楽大学教授、桐朋学園音楽大学、武蔵川女子大学他特別講師。著書に「はじめてのインターンシップ」など。

## ようこそ! 公民館へ

~安佐北区内公民館~

地域のみなさんの学習活動を応援する最も身近な施設「公民館」でまちづくりに関する活動をしているグループをご紹介します。今号は、安佐北区内公民館で活動しているみなさんです。

### 1 趣味の尺八

真亀公民館

私たち「趣味の尺八」グループは、尺八の流派に関係なく、尺八を趣味としている者が集まって結成されました。最近の邦楽の衰退やメンバーの高齢化などにより人数が減ったため、琴のグループの協力により、邦楽だけでなく童謡や歌謡曲などを尺八と琴で合奏練習するサークルとして活動しています。

活動日は毎月第1と第3土曜日の午前9時半~11時半です。主に公民館まつりのステージ演奏を目標にして、和気あいあいと楽しく練習に励んでいます。広島市の「高齢者いきいき活動ポイント事業活動団体」にも登録しています。

会費は、趣味の集まりのため、公民館使用料と楽譜代ぐらいです。新しい仲間の募集をしていますので、関心のある方は、老若男女を問わず、お気軽に真亀公民館へご連絡いただくか、活動日に見学に来てみてください。



### 2 ブルースカイハーモニカ

口田公民館

身体の芯に「そぉーっ」と入り込む独特の音色。奏でられる響きが、様々な情景を想

像させてくれ、ハーモニカの音色は心を癒してくれます。そんな楽器が好きな仲間が集まり、親交を深めているグループです。

自分たちで演奏したい曲を選んで、講師の指導を受けています。独奏や合奏を行い、その練習成果を公民館まつりや地域のイベント等で発表しています。

毎月第2と第4土曜日の午前9時半から午後12時半まで、口田公民館で活動しています。

新たな人との出会いから、輪が広がり心の触れ合いが生まれ育てばと、日々を楽しみながら練習にいそんでいます。少しでも興味をお持ちの方は、是非見学にお越しただければ幸いです。



### 3 安佐人(あさじん)バンド

安佐公民館

安佐人バンドは、今年の9月で10周年を迎えました。結成当時は、バンドではなくベルトかな?腰紐かな?と部員同士で自嘲していましたが、今日では何とかバンドらしい姿になってきたかなと思っています。「安佐人バンド」は、安佐町在住の音楽仲間と言う意味で名付けました。

平成21(2009)年9月、公民館の広報で「楽器を持って集まろう!」の呼びかけに集まったのは素人ばかり。それでも練習を重ねるごとに楽しさが増し、チョッピリ自信も付きました。現在は、サクソ・ピアノ・キーボード・フルート・バイオリン×2・大正琴×2、の8名。平均年齢は72歳です。「明るく、楽しく、前向きに」をモットーに日々練習し、老人介護施設への慰問や地域の自治会行事等で年間20~30回程度演奏させていただいています。

私たちは、皆様の笑顔が励みです。これからも地域の皆様に少しでも幸せをお届けし、愛されるグループとなるよう頑張ってい

きたいと思っています。

活動日:毎週金曜日午後1時~4時



### 4 リコーダーグループ青い鳥

日浦公民館

私たち「リコーダーグループ青い鳥」は、「生活の中に音楽を取り入れましょう!」「家の中で使われずに眠っているリコーダーを使って楽しみましょう!」という公民館の講座をきっかけに結成されたグループです。

リコーダーに触るのは初めての人、楽器の経験者、現役でリコーダーを吹いている小・中学生、子どもと一緒に出来る事を探していたお母さん、学校の音楽の時間はハーモニカだった世代…。老若男女、幅広い年齢層が集まって活動しています。

「好きなこの曲を自分で演奏できるようにになりたい!」

「この曲ステキだから皆でアンサンブルしてみませんか?」

という具合で、和気あいあいと楽しみながら色々なジャンルの曲に挑戦中です。

活動日は、毎月第1~4木曜日午後7時~9時です。第2・第4木曜日の午後7時~8時半までは先生を招いてレッスンをしています。その他の木曜日は希望者で集まり自主練習を行っています。

楽しそう!と思った方、気軽に体験・見学に来てみて下さいね♪



グループへのお問合せについては、各公民館へお願いします。

- ① 真亀公民館 …………… ☎082-842-8223
- ② 口田公民館 …………… ☎082-842-7744
- ③ 安佐公民館 …………… ☎082-835-0111
- ④ 日浦公民館 …………… ☎082-838-3220

# 名人宝人 達人

## Interview 1

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。地域活動やまちづくりのお手伝いに、今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

吉島フォークダンスサークル 代表 <sup>ふるた じゅんこ</sup> 古田 絢子さん



▲古田絢子さん

### 誰もが親しみやすいフォークダンスを通して、健康づくり、仲間づくり、生きがいづくりを

50年の歴史を持ち、広島フォークダンスサークルの草分け的な存在でもある「吉島フォークダンスサークル」の代表を務めているのが古田絢子さんです。

フォークダンスの起源は定かではありませんが、その昔、狩りの成功を祝って踊ることから始まった民族舞踊といわれています。日本では昭和20年代に、長崎に駐留していたアメリカ人によって全国に普及し始めたようです。

「もともと私は、ガールスカウトの指導をしていました。子どもたちだけでなく、色々な年代の方を楽しませたいとレクリエーション協会の資格を取得。そして、手と手を取り合って踊ることで仲良くなれるフォークダンスの魅力にはまっていきました」と古田さん。

古田さんは、平成12年頃に吉島フォークダンスサークルの存在を知り入会しましたが、1年半後には福岡に転居。福岡でもフォークダンスサークルに入り活動を続けていました。平成18年には、日本フォークダンス連盟が定める公認指導者資格を取得。



▲第16回エコロジーマーケット出演の様子(令和元年10月)

指導者としてもフォークダンス普及のために活動を始めたそうです。「フォークダンスは、誰もが運動会等で一度は踊った記憶があると思います。「オクラホマミキサー」「マイム・マイム」「コロボチカ」など楽曲は数えきれないほどあり、私もいまだに講習会に参加したり資料を読んだり、DVDを見て、みんなで楽しく踊れる曲を探したり、踊りの勉強をしています」。

平成21年、広島に戻ってきた古田さんは、吉島フォークダンスサークルに復帰。平成26年にそれまでの指導者が引退した後は、自ら代表を務めて、長い歴史を持つサークルが継続していけるように尽力しています。現在、サークルには12人が在籍。毎週木曜日に吉島公民館で2時間の練習をし、イベントや、年4回の高齢者施設への慰問を行っています。

「これからも、世代を超えて誰もが楽しめるフォークダンスを通して、健康づくり、仲間づくり、生きがいづくりに取り組んでいきたいです。笑顔で踊っていれば、それを見ている人たちも自然と笑顔になると思います。そして楽しい時間を過ごしてもらえれば」と古田さん。溢れる笑顔と持ち前のパワーで日々活動する古田さんたちにこれからも期待します。



▲吉島公民館での練習の様子

を依頼した。

結果は、例年の倍以上の参加があり、特に子ども達が最後まで楽しめる行事にすることができた。参加した町内の方々から「今年は楽しかった」「楽しい企画をありがとう」と役員へお礼の言葉が多数寄せられた。人材バンク登録者を紹介してもらって本当によかった。

ケース2/役員になって初めてのサロン事業、何をしよう...

地域のひとり暮らし高齢者が集い交流するサロン事業。毎月1回開催している事業の運営に携わることになった。2時間のサロンのうち、1時間は講演会や体験会を開き、残りの1時間は参加者同士が交

流する茶話会と決まっているのだが、役員になって初めてのサロンで具体的に何をしようか悩んでいたとき、インターネットで人材バンクを知り、ボランティア登録者の紹介を依頼した。

ボランティア登録者をゲストとしてお招きし、楽器の生演奏によるミニコンサートを企画することができた。こちらのリクエストにも応えてもらえ、懐かしい歌謡曲の演奏に合わせて参加者全員で歌うこともできた。その後の茶話会では、ゲストも交えて懐かしい思い出話に花が咲いた。人材バンクには、まだまだ多くの登録者がおられるので、また時々ゲストとしてお招きできたらなと思っている。

## Interview 2

きりえ作家 <sup>むらおか けいこ</sup> 村岡 啓子さん

### 一枚の紙で表現するきりえ、その奥深さと魅力を届ける

食べ物や人物を創作モチーフにして下地となる紙に直接描き、黒い紙に固定した後、不要な部分を切り抜き絵を作り上げていく絵画の手法のひとつ「きりえ」。このきりえの作家として活動されているのが、村岡啓子さんです。

村岡さんは平成7年に呉市広在住の洋画家木村洋一さんに師事。「師匠の木村さんが亡くなるまでの12年間で、絵画の教えを受け、晩年の4年間はきりえについても学びました。木村さんは、パブロ・ピカソを敬愛し、彼の画の表現方法に興味を持ち、自らの作品にもその思いを投影していました。そんな木村さんから、きりえについて教わったポイントは「モチーフの中心から切る」「白黒でも、色彩を感じさせる」の2つだけ。きりえは白と黒の2色だけでいかに絵を表現するのか、その難しさと奥深さに興味を持ち、のめり込んでいきました」と村岡さん。

平成19年に木村さんが亡くなると、その遺志を継ぐかのように、きりえに没頭し、個人で作品展を開くまでになりました。そんな村岡さんが手掛けるきりえは、まず下絵を鉛筆で描き、その後トレーシングペーパーを使って切り込む紙へ転写。下絵の図をスケッチした線を、なるべくトレスせずに紙を直に切っていきます。そうすると絵がダイレクトに表現できるそうです。



▲きりえ作品「DEDO (デド)～指～」(平成18年作)

平成21年の人材バンク登録後は、毎年、作品発表会や人材バンクまつりに参加。そして公民館からの依頼で指導を行ったり、趣味できりえを楽しむ人への個人指導もしている。さらに、平成22年頃からは漫画ときりえをミックスした「キリオリエ」と呼ばれる表

現方法にも挑戦。工夫次第で、色々なフォームになるそうです。そして平成29年には「絵のある食卓」風景をモチーフにした作品を、平成30年からは村岡さん自身が主宰するアマチュア劇団「terp (テルプ)」の舞台用の背景、オブジェなどの作成を、シナリオの本読み、発声練習と併せて毎月の演劇勉強会で行っています。

「きりえは、一枚の紙を使って表現する作品であり、使う紙の質によって完成した時の雰囲気が大きく異なり、演劇では舞台の背景や、影絵など、色々な作品表現が可能なアートです。そんな事を考えるだけでも楽しいですね」と村岡さんは、きりえの魅力について語ります。

現在は、人材バンクでの活動に加えて、年に2回ほど広島市内のギャラリースペースがあるカフェなどで作品展を開いており、今後はさらに年3回の展示会の開催も予定。そして、演劇とコラボレーションした作品作りにも、もっと取り組んでいきたいと考えているそうです。一枚の紙からできる作品に込められた、きりえの奥深さと魅力を届ける村岡さんのさまざまな活動に、今後も目が離せません。



▲村岡啓子さん



▲吉島公民館でのワークショップイベントの様子(平成30年5月)

### こんな時・こんな場面で、人材バンク登録者が活躍! まずはお気軽にご相談ください。

ケース1/町内会行事のマンネリ化を打破したい

毎年恒例の新年親睦会。町内の子どもから高齢者まで誰でも参加できる行事だが、ここ数年は会食と食後のカラオケ、最後にビンゴゲームが定番となり、決まった顔ぶれしか集まらなくなった。何か新しい試みて、マンネリ化を打破したいと考えていたときに、人材バンクを知り、ボランティア登録者の紹介

### まちづくりボランティア人材バンク発表会

ボランティア登録者が自らの達人ぶりを披露します。気軽にお立ち寄りください。

- 日時/毎月第4土曜日 午後2時～3時半
- 場所/南棟1階ロビー

※まちづくりボランティア人材バンクは、政治・宗教・営利目的での登録並びに紹介申込は受けておりません。  
※交通費、資料代、材料費などの実費をご負担いただきます。

開催日時	内容	出演者名
12月28日(土)	みんなの寺子屋	小林 妙慧
1月25日(土)	箏(KOTO)	専徳院 知子
2月22日(土)	防災講演会・研修会の講師、自主防災組織の育成指導、防災教育	柳迫 長三

※内容・出演者は急遽変更になる場合があります。

ボランティア紹介・登録などのお申込・お問い合わせは...

合人社ウエンディひと・まちプラザ ☎(082)545-3911 ☎(082)545-3838